２０２４年０３月０７日 読売東京 朝刊 都民２ １３Ｓ版 ２４頁

「名勝」復活の取り組み

文人の武蔵野

桜の名所と言えば、皆さんはどこを思い浮かべるでしょうか？ 乗り換え案内検索大手「ジョルダン」の「お花見人出ランキング」によると、最も人数を集めているのは上野恩賜公園（約４００万人）で、２位が新宿御苑（約１９２万人）、３位が神奈川県立三ツ池公園（約68万人）です。４位は井の頭恩賜公園（約66万人）で、群馬県伊勢崎市の華蔵寺公園（約63万人）、靖国神社（約50万人）と続き、上位を関東が独占しています。

一方、小金井公園は、同社の東京都内のお花見人気ランキングで18位に入っていますが、上位ではありません。前掲「お花見人出ランキング」ではランク外です。小金井桜は江戸後期に「名所」となり、大正13年（１９２４年）には国の名勝に指定され、吉野の桜に匹敵する東国一の桜と言われました。ランキングが全てではありませんが、なぜここまで落ち込んでしまったのでしょうか？

文人に愛されてきた山桜

桜並木の山桜。切り株となった木も目立つ（小金井市で）

その要因は生育環境の悪化にあるようです。小金井桜は昭和期半ばから桜樹が衰え、本数も減少していきました。現在、小金井市、小平市、武蔵野市、西東京市の市民と行政が「名勝 小金井桜」の復活に取り組んでいると聞いております。今後が楽しみです。

先のランキングでは、１位と４位に「恩賜公園」があります。「恩賜」とあるのは元々宮内省の御料地だったことを示しています。新宿御苑もまた宮内省の御料地、皇室庭園でした。日本独自の文化的慣習である「花見」が、いかに近代日本の始まりとしての「東京」の公権力によって支えられてきたのか、群桜の見物を可能にする公園が、いかに計画的に作られ、多くの人々に親しまれてきたのか、そして、いかに国と都が主導して生育環境に気を配り、予算をかけてきたのかが想像できると思います。

桜の種類も人気に関係しているように思われます。東京の桜は成長の早いソメイヨシノが中心ですが、小金井の桜は、正岡子規が「玉川の流れを引ける小金井の桜の花は葉ながら咲けり」（１９００年）と詠んだように、山桜がメインです。古代から詩歌に詠まれてきたのはソメイヨシノではなく山桜です。小金井は、山桜の伝統を守ってきたと言えます。

「葉ながら咲けり」は後れを取ることになりましたが、花を愛でるこまやかな感性においても多様性が尊重されるべきではないでしょうか。

（武蔵野大学教授、むさし野文学館館長・土屋忍）

＊

過去の連載は、読売新聞オンラインでお読みいただけます。スマートフォンはＱＲコードから。